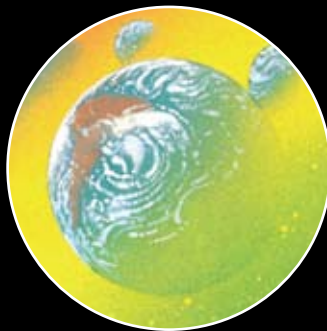


# 式貴士 カンタン ガイド 2nd edition

*Takashi Shiki Quick Reference*





装幀/今井俊哉

## カンタン判

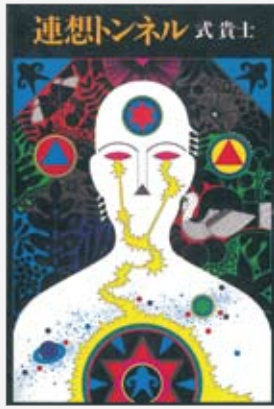
1979.5 CBSソニー出版

帯表に「デビュー謎の超SF作家」の惹句、裏には中島裕氏の推薦文「式貴士さんの小説はどれをみても、きわめて視覚的にまさまじとしていているのがいい。彼のイメージは瞬間的に読む者の脳に焼きついてしまう。(後略)」が寄せられた。重版分の帯表には、星新一氏からの推薦文「(前略) だじやれあり、ベダントリあり、パロディあり、あれまあれまと面白からせてくれる」が追加。巻末に、著者の住所と電話番号の記載あり。

## 目次

ポロロッカ  
おてて、つないで  
ドンデンの日  
カンタン判  
バックシート・ドライバー  
ルパンと竜馬とシラノと  
日本が眠った日  
不思議の国のマドンナ  
Uターン病  
長ア〜いあとがき

01



装幀/今井俊哉

## 連想トンネル

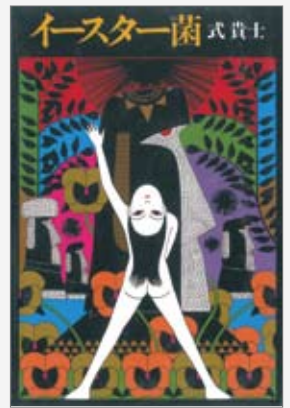
1980.5 CBSソニー出版

全作書き下ろしの短篇集。各タイトルの文字数を揃えているのは著者のこだわりだ。「猫は頭にきた」「マスカレード」は、作家修行時代の習作がアイデアの基になっている。本書をまとめた初期三作の装丁と装画を手がけたのは、イラストレーターの今井俊展氏(故人)。黒のバックに童話風のイラストを配し、カハリの表裏がシメトリリーになっている秀逸なデザインは、初期の式作品のイメージを決定づけるほどのインパクトがあった。

## 目次

連想トンネル  
見えない恋人  
ロボット変化  
首吊り三味線  
文明破壊作戦  
猫は頭にきた  
マスカレード  
おなじみ、長いあとがき

03



装幀/今井俊哉

## イースター菌

1979.10 CBSソニー出版

帯表の惹句は「謎がまた謎をよぶ超SF作家! (中略) 心臓の弱い方、18歳未満の方は悪酔いにご注意ください」。珠玉の抒情短篇「恋鴉」の他、小早川博名義で「えろちか」に書いた幻の怪作「チンポロジ」を収録。初期作品集の初出は、ほとんど『奇想天外』発表のものだったため、本書では「東城線見聞録」が書き下ろされた。「ふたたび、長いあとがき」では、関係者と読者から寄せられた『カンタン判』のアンケート結果を披露。

## 目次

恋鴉  
ユリタン語四週間  
東城線見聞録  
涸いた子宮  
チンポロジ  
イースター菌  
ふたたび、長いあとがき

02



装丁/小坂孝司

## 吸魂鬼

1980.8 集英社

生前の単行本で、唯一の集英社からの刊行。ホームグラウンドのCBSソニー出版でないこともあり、あとがきの長さも常識的な範囲に収まっている。「エイリアン・レター」は『月刊ブレイブイ』、『シチシヨウ報告』は『週刊ブレイブイ』が初出。その他、エロティック路線の代表作である「触覚魔」、間羊太郎名義で『ヒッチコックマガジン』に発表した著者の処女作(初めて活字になった小説)「海の墓」など全七作を収録。

## 目次

SF作家倶楽部  
吸魂鬼  
エイリアン・レター  
海の墓  
カメレオン・ボール  
触覚魔  
シチシヨウ報告  
あとがき

04



カバー・イラストレーション/勢定史 カバー・デザイン/田島忠久

## 虹のジブシー

1980.11 CBSソニー出版

唯一の長篇。エロ、ゲロ、ナンセンス、センチメンタリズム——式短篇のあらゆる要素が詰まった集大成的な作品で、著者の心の変遷を描いた教養小説でもある。「ほどほどに長いあとがき」で、原型となる同人誌『アステロイド』版が存在することが書かれていたが、ワセミス関係者でも直接関係者以外は読むことができなかったようだ。著者が亡くなった後、富士霊園「文学者の墓」に、本作が作家・式貴士の代表作として墓標に刻まれた。

## 目次

- プロローグ
- 紫の章 πの哲学
- 藍の章 Down-down-down
- 青の章 ヤコブの梯子
- 緑の章 マリー・セレストの幻影
- 黄の章 狂った向日葵
- 橙の章 ジベレインの精
- 赤の章 血まみれのアンドロギュノス
- エピローグ
- 赤外の章 日輪の大団円
- ほどほどに長いあとがき

05



装幀/横尾忠則 装幀/奥山山枝

## 怪奇日蝕

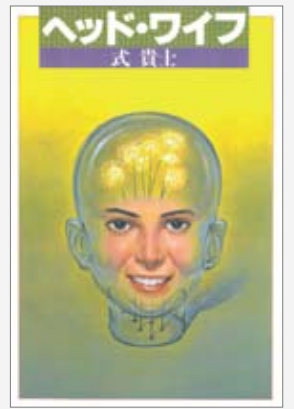
1981.11 CBSソニー出版

怪奇色の強いクロテスク路線の短篇を多数収録。「われでも未だ」など、センチメンタリズム路線の作品も収められている。蘭光生名義のSM小説を彷彿させる「おれの人形」の壮絶な描写も忘れ難い。『イースター菌』収録の「ユリタン語四週間」とのリンクがある。「落語ワールド」は、マガジンハウスの『ブルータス』が初出。装丁は横尾忠則氏が手がけており、二〇一三年刊行の『横尾忠則全装幀集』には本書の書影も収録されている。

## 目次

- 怪奇日蝕
- 懐中幻燈
- 犬が嘔う
- 血の海
- おれの人形
- 落語ワールド
- われでも未だ
- なんとなく、長いあとがき

07



装幀イラストレーション/若島雅樹 装幀/望月秀雄・田嶋定雄・ネットアート

## ヘッド・ワイフ

1981.5 CBSソニー出版

収録短篇のタイトルは、全てカタカナで統一。「ボーデン・ベビー」「スペース・エロス」「ソウル・スネイク」「アంతタッチャブル」など、エロティック路線の短篇が多く収められている。CBSソニー出版の単行本版では、各短篇のあとに「短いあとがき」、最後に「お待たせ、長いあとがき」がつくという構成。角川文庫版では、前出のあとがきを統合したうえで、一部改稿した「日本一長いあとがき」（原稿用紙百三十枚分！）を収録。

## 目次

- マイ・アドニス
- ボーデン・ベビー
- スペース・エロス
- スカトロ・エレジー
- エイリアン・ラブコール
- ホルモン・フィルム
- ソウル・スネイク
- アంతタッチャブル
- ヘッド・ワイフ
- お待たせ、長いあとがき

06

## 角川文庫版

後期三冊をのぞく七冊は文庫化。「長いあとがき」の代わりに「連想トネル」は斎藤麟、『虹のジブシー』は土屋裕、『吸魂鬼』は大宮信光、『怪奇日蝕』は長谷邦夫の解説がある。『イースター菌』の「ふたたび、長いあとがき」のための長いあとがき」は要子エック。



1983.11 カバー/藤野宏夫



1982.7 カバー/辰巳博郎



1985.11 カバー/森謙仁



1982.11 カバー/辰巳博郎



1986.2 カバー/森謙仁



1983.10 カバー/かわむちゆういち



1982.4 カバー/辰巳博郎





## なんでもあり

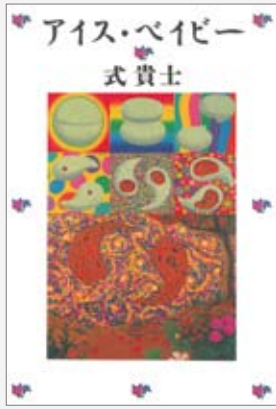
1982.10 CBSソニー出版

エロティック&ナンセンス路線の短篇のみで編まれた作品集。蘭光生的な露骨なエロ要素がふんだんに盛り込まれ、これまでの短篇とは味わいが異なるものが多い。生前刊行の単行本の中で、もっともアクの強い二冊だ。式貴士の単行本で、初めて「あとがき」がつかず、各短篇の初出も伏せられていた（初出は『天虫花』で補足された）。装画は、画家のタイガー・立石氏（故人）が担当。続く『天虫花』『アイス・ベイビー』も手がけている。

### 目次

- なんでもあり
- 壁抜けコック
- 翔んだカッパル
- 夢精子
- 夢で逢いましょう
- 名器
- 変身綺談
- 視線
- 秘航物体X
- マスターキー
- ザ・カントマン

# 08



## アイス・ベイビー

1984.12 CBSソニー出版

生前最後の作品集。「長いあとがき」もなく、雑誌発表作品を雑然と収めた印象はあるものの、バラエティ豊かな作風は初期の三作に通じるものがある。インモラルなテーマを扱った表題作「アイス・ベイビー」、妻の復讐劇を描く「鉄輪の舞」、第四短篇集の表題作「ヘッド・ワイフ」の姉妹篇で、妻がベッドになる「ベッド・ワイフ」など十八編を収録。「血の絆」「かわいそうなママ」は講談社の『ショートショートランド』が初出だ。

### 目次

- 金縛り
- イルカになった中年男殺し
- キャッチホン
- スカイ・ラヴ計画
- 妄想ギャル
- 四羽のトキ
- 動く指はかく
- ボカーン・パ
- 一億総痴漢
- 神に似せしもの
- ベッド・ワイフ
- 鉄輪の舞
- 餅肌娘
- 血の絆
- かわいそうなママ
- リリパット症候群
- アイス・ベイビー

# 10



## 天虫花

1983.4 CBSソニー出版

センチメンタリズム路線の短篇のみを収めた抒情作品集。「二人静」は書き下ろし。「面影抄」は間羊太郎名義で書いた習作を改題したもの。「水中花」では、ゴールデン街通いの経験が反映されている。タイトルは全て三文字に統一され、「〇の〇」というショートショートが各短篇の間に入る構成になっている。装画と装丁も素晴らしい。凝った作りの一冊だ。本書収録の「日記風・長いあとがき」が、式貴士最後の「あとがき」となった。

### 目次

- 夢の絆
- 水中花
- 虹の橋
- 二人静
- 肉の蝶
- 面影抄
- 猫の星
- 天虫花
- 時の雫
- 日記風・長いあとがき

# 09



## 鉄輪の舞

1993.4 出版芸術社

恐怖・ホラー・奇怪な文芸を集めた著者別の作品集「ふしぎ文学館」シリーズの創刊三冊目。当時、同社の社員編集者だった日下三蔵氏が編集を手がけている。帯裏の推薦文は、宮部みゆき氏。式氏のバラエティ豊かな作風が味わえる一冊で、初めて式作品に触れる方には本書をお勧めしたい。刊行から二十年以上、新刊で手に入る状態が続いているのも有り難い。未収録作品が収められた経緯は、新保博久氏の「式貴士追想」を参照のこと。

### 目次

- カンタン刑
- 潤いた子宮
- チンポロジ
- 首吊り三味線
- 海の墓
- マイ・アドニス
- スカトロ・エレジー
- 犬が嘔う
- 肉の蝶
- 面影抄
- 夢の子供（単行本未収録）
- 緑の星のアダムとイブ（単行本未収録）
- 飾窓の少女（単行本未収録）
- 小指（単行本未収録）
- 鉄輪の舞
- あとがき（既刊本からの抜粋）
- 式貴士著書リスト

# 11



カバーイラスト/日月野帆 カバーデザイン/泉沢光雄

## カンタン刑〈式貴士 怪奇小説コレクション〉

2008.02 光文社文庫

怪奇色の強い短篇を中心に収めた作品集。解題を担当した式貴士研究家の五所光太郎が、光文社文庫編集部による本の企画を持ち込んで実現した。巻末エッセイは、「カンタン刑」を「史上最強の短篇」と評する作家の平山夢明氏が執筆。苛酷なコンビニ店長時代に式作品を読んで救われた経験が続いている。ポナストラックとして、単行本未収録作品二作と、間羊太郎名義で原作を担当し、上村一夫氏が作画を手がけた劇画「仕置猫」を収録。

### 目次

- カンタン刑
- 首吊り三味線
- 涸いた子宮
- ヘッド・ワイフ
- おれの人形
- マイ・アドニス
- 血の海
- アイス・ベイビー
- メニエル蟬（単行本未収録）
- 塵もつもれば（単行本未収録）
- 鉄輪の舞

東城線見聞録  
 〈劇画〉仕置猫（原作・間羊太郎、画・上村一夫）  
 破壊されて嬉しかった日 平山夢明  
 解題 五所光太郎

### 目次

- SFとはお伽話だ、と思っっている。（エッセイ）
- 大麻戦記
- 不透明な壁
- 蓄電器
- リモコン・レディ
- 死人妻（絶筆）
- タンツボ味噌・ゴモツリませ（飯の味（エッセイ））
- 美少女はこわされるためにのみ存在する（エッセイ／蘭光生）
- コンプレックス・ベニス（は伸びに伸びて天を突く！（エッセイ））
- 拝啓桜田門殿（これからかかんばってね（エッセイ／蘭光生））
- 美人看護婦の眼に「腫マテ」の輝きを見た（エッセイ／蘭光生）
- 人妻は温泉浴場で入浴をフリ切ってしまった（エッセイ／蘭光生）
- 処女こそはオメガイ席には関係なし!!（エッセイ／蘭光生）
- 出不精SF作家の差別的小説作のススメ（エッセイ）
- 妄想ヒロマンの鏡斎権師 香山滋論（評論／間羊太郎）
- 有馬頼義論（評論 間羊太郎）
- 女流作家への手紙 宮野村さんへ（評論／間羊太郎）
- 死人妻 自筆原稿
- 解題 五所光太郎



表紙/黒田隆 (hanka) Forest Queens 表紙デザイン/松本林彦

## 死人妻 〈式貴士生誕80周年 未収録作品集〉

2013.12 虹星人叢書（私蔵巻）

光文社文庫『カンタン刑』『窓鴉』の選からもれた、エロティック路線の未収録短篇四作＋絶筆作品『死人妻』、間羊太郎名義の評論、雑誌『スコラ』発表のエッセイ等を収録した私家版。巻末に、「死人妻」の自筆原稿十一枚を掲載。式貴士研究サイト「虹星人」にて通販のみで頒布され、現在品切れ（二〇一五年五月時点。表題作は『年刊日本SF傑作選さよならの儀式』（大森望・日下三蔵編／創元SF文庫）で読むことができる。



カバー画/榎藤孝生 桜花図鑑「窓鴉」 カバーデザイン/西橋秀秀

## 窓鴉〈式貴士 抒情小説コレクション〉

2012.2 光文社文庫

『天虫花』収録の短篇とショートショートを中心に、各単行本から代表的なセンチメンタリズム短篇を集めた作品集。式貴士以前に書かれた、間羊太郎名義の短篇が多く収められているのが特徴だ。エログロの要素がもっとも薄く、式貴士を知らない人に勧めやすい一冊になっている。ポナストラックとして、単行本未収録エッセイを収録。巻末エッセイの執筆は、作家の瀬名秀明氏。式貴士への熱い想いが綴られたエッセイはファン必読だ。

### 目次

- 窓鴉
- 夢の絆
- Uターン病
- 虹の橋
- マスカレード
- 飾窓の少女
- われても末に
- 猫の星
- 天虫花
- 時の筆
- 面影抄
- 空が泣いた日
- 海の墓
- 夢のどんでん（単行本未収録エッセイ）
- 「宇宙塵」落ちこぼれ人（単行本未収録エッセイ）
- 大東亜戦争に散った僕の初恋（単行本未収録エッセイ）
- また、きみに会えるだろうか？ 瀬名秀明
- 解題 五所光太郎



表紙/奥定章之

## 虹のジプシー 完全版

2015.4 論創社

没後10周年での出版は本書が初めて。帯表の意図は「幻の同人誌版・秘蔵エッセイを収録。全てのバージョンが楽しめる決定版。ワセタミステリクラブのSF同人誌『アステロイド』発表の原型作を初掲載。『奇想天外』版との差異を調べた資料もあり。その他、「私はプロ」「SFとはお伽話だ、と思っっている。」等のエッセイ、構成を手がけた「今東光の極道辻説法」の単行本に寄せた、清水聰名義のあとがきを収録。五所光太郎・編。

### 目次

- 単行本版虹のジプシー
- 『アステロイド』版虹のジプシー（間羊太郎）
- アステロイドな私（エッセイ 間羊太郎）
- 私はプロ（エッセイ／清水聰）
- SFとはお伽話だ、と思っっている。（エッセイ）
- 『最後の極道辻説法』あとがき（エッセイ／清水聰）
- 角川文庫版解説 土屋裕
- 巻末資料 単行本版と『奇想天外』版の差異について
- 編者解説 五所光太郎

### 目次

- SFとはお伽話だ、と思っっている。（エッセイ）
- 大麻戦記
- 不透明な壁
- 蓄電器
- リモコン・レディ
- 死人妻（絶筆）
- タンツボ味噌・ゴモツリませ（飯の味（エッセイ））
- 美少女はこわされるためにのみ存在する（エッセイ／蘭光生）
- コンプレックス・ベニス（は伸びに伸びて天を突く！（エッセイ））
- 拝啓桜田門殿（これからかかんばってね（エッセイ／蘭光生））
- 美人看護婦の眼に「腫マテ」の輝きを見た（エッセイ／蘭光生）
- 人妻は温泉浴場で入浴をフリ切ってしまった（エッセイ／蘭光生）
- 処女こそはオメガイ席には関係なし!!（エッセイ／蘭光生）
- 出不精SF作家の差別的小説作のススメ（エッセイ）
- 妄想ヒロマンの鏡斎権師 香山滋論（評論／間羊太郎）
- 有馬頼義論（評論 間羊太郎）
- 女流作家への手紙 宮野村さんへ（評論／間羊太郎）
- 死人妻 自筆原稿
- 解題 五所光太郎

# 式貴士追想

新保博久（ミステリー評論家）

改めて清水聰先輩の魔力に感じ入った。

まず、二年前亡くなったおろ、日本推理作家協会会報五〇八号（一九九一年四月）に「六つの人生を生きた男」と題して私が書いた追悼文を再掲させていただこう。ただしこれはワープロのフロッピーディスクに残しておいた元原稿に少し手を入れたもので、発表された文章通りではない。

もう五年前になる。六つの顔を持つ男のデビュー何十周年だが、著者何十冊目だかを記念するパーティが行われた。

その時の招待状が見つからなくて曖昧な話になるが、六つの顔の男とは、ミステリー&雑学評論家・間羊太郎、風俗研究家・小早川博、西洋占星学研究家・ウラヌス星風、SM作家・蘭光生、そしてSF作家・式貴士と五つのペンネームを駆使する清水聰氏である。

六つ目の顔は本名なのか、それとも直木三十五にあやかり本名を少しもじった清水三十四だったか。この最後の名前は、W・ヒューツバークの『エンゼル・ハート（墮ちる天使）』を抄訳ながら月刊『プレイボーイ』誌上で初めて紹介するさい用いられたと記憶する。

本名の清水聰氏としては、私にとつてワセタ・ミステリークラブの最上級先輩にあたる。仁賀克雄氏の回想によれば一九五七年暮、当時一年生だった仁賀氏の呼びかけで同クラブが誕生したころ、翌春に大学院卒業を控えた清水氏が三ヶ月間だけでも入部したいと申し込んできたという。したがって清水氏の会員番号は〇番に入っている。その頃よちよち歩きだった私が長じて大学も卒業間近、クラブ創立二十周年記念の席上で初めて清水氏と顔合わせしたはずだが、何か話をしたかどうか覚えがない。それよりさき、友人に借覧した間氏の『ミステリー博物館』

にいたく感嘆し、これが絶版であるのは勿体ないと、卒業後、マスコミ周辺で口を糊していたのを幸い、社会思想社に文庫化の企画をもち込んだ。『玉石』連載時の題名『ミステリー百科事典』に戻されて現在に至るもロングセラーとなっているが、これをきっかけに直接目をかけていただくようになった。

だが、お会いしたことは数えるほどしかない。六つの顔の男のパーティ以降、一度お目にかかったかどうか。その代り電話は頻繁にかかってくる。実は氏は大変な人間嫌いで、少数の心を許した友人たちとも、もっぱら電話でしか話さなかったという。

読者としても、私が親しんだのはほとんど間羊太郎と式貴士のみである。六つの顔全部をよく知っている人がどれだけいるだろう。

だが、その素顔をひとことに要約するなら、ダンディズムの人だったということは確信できる。直接の死因は心肺機能不全だが、食道癌の手術と抗癌剤の副作用による体力低下がもたらしたものだ。やつれた顔や体を見せたくないし知人の見舞も断り、おかげで生前のお別れも叶わなかったが、個室療養を主張したのは、あかの他人に見られたくない意識が強かったせいだろう。同室者がいれば、命取りとなったダンディズムを貫き通したのには、見事な最期というほかない。

来る五月三十日、富士霊園の作家之墓に納骨される際は、作者が最も愛した唯一のSF長篇『虹のジプシー』が生前の希望により代表作として墓碑に刻まれるという。構成上はその原型をなすと思われる短篇『シチシヨウ報告』は、学徒出陣で夭折した主人公が神様との賭に勝ち、七つの人生を生き直す物語である。その主人公さながら、清水氏もどこかで七番目の顔を得て生き続けているのではないか。

来世を信じない私にも、その七生目の氏から電話がかかってくるような気がする夜もあるのだ。

もちろん電話はかかって来なかった。しかし、清水氏はすっかり私を見張っておられたようだ。

清水氏の遺された作品切抜きや資料など、縁あって私がお預かりしたのだが、その後忙しさにかまけてうっちゃらかしておいた。翌年二月十八日の一周忌までには何とか、少なくとも著作目録ぐらゐは私家版でも出したと、思っているうちに年が明けて一月十日、今度は松村喜雄氏の訃報に接したものだ。松村氏は推理作家、フランス・ミステリーの研究家・翻訳家だが、この方にも一方ならずお世話になっていたから、何やかや後始末を手伝っている間に、清水氏の一周忌は過ぎてしまっていた。

なんとも面目ない話だが、年をとると生者より死者のほうが親しいものに感じ始められるという、その時期が私も訪れかけているのだろう。そういえば私は、ちょうど清水氏の亡くなる直前くらいから現在に至るまで、江戸川乱歩の遠縁でもあった松村氏の肝煎りで、乱歩亡き後そのままに放置されていた有名な土蔵の整理も手伝っている。

さてその年末、つまり去年末に推理作家協会の会合で、出版芸術社の社長原田裕氏に会う機会があった。用事が済んで表参道駅のホームで別れ際、こんど「ふしぎ文字館」というシリーズを出すと聞き、ひとり一巻ずつになるその収録作家も教えてもらった。そのなかに式貴士も含まれていたのだが、私はまだ思い出さなかった——預かった遺品のなかに、式貴士名義の未発表原稿らしいものがあったこととを。

歳ごとに横着になり、そして物忘れもひどくなっている。そういう原稿があることを原田氏に出す年賀状にでも書き添えようと思つて忘れ、年が明けて電話しなければと思いつながらまた忘れた。

天上の清水氏も、さすがにやきもきされたらしい。今度は知人がスキー板を買うのにつきあって神田へ出た際、この春出版芸術社に入社した青年（\*）に偶然出くわした。偶然というより、清水氏が按配なさったとしか思えない。さすがに今度は私も、そういう原稿が家にあるから取りに

来てよと言うのを忘れずに済んだ。  
すると、単行本未収録短篇はもうないと思っていた、既刊短篇集から傑作を選んで再編集するつもりで、もう収録作品もほぼ決まっていたが、そういうものがあるならもちろん差替えたいのとたまう。そこで遺品のホコリを約二年ぶりに払うことになったが、期待していた未発表原稿「死人妻（デッド・ワイフ）」は残念ながら十枚ばかり書いた第一章だけで未完、全集ではないのだからちよっと載せられないという。しかし、未収録短篇九篇が遺品のなかにあったので、こちらは極力生かしたいとのこと。多少はお役に立ったわけだ。

## 私の式貴士体験

式貴士（しきたかし）というSF作家を知っているだろうか？ 残念ながら知っているという人にはほとんど出会ったことがないけれど、もし記憶のすみに引っかかると思えば、初期の短篇集『カンタン刑』『イースター菌』『連想トンネル』を読んだことがあるか、名前くらいは聞いたことがあるという、昔SFを熱心に読んでいた三十代以上の方、間羊太郎名義の『ミステリ百科事典』で知っているというミステリファン、そして意外に多いのは、ポルノ作家・蘭光生の別名として知っているコアなアダルト小説ファンくらいだろうか。  
どんな作家かといえば、変わっていて怪しい小説が好きだという人にぜひお勧めしたい。『世にも奇妙な物語』が好きというライトな人から、『ガロ』系のカルト漫画が好きなディーブな人まで、ぜひ読んでいただきたい作家である。

私がこの作家を知ったのは一九九三年、高校三年生の時。私としては小説好きというわけでもなかったのに、黒く怪しい表紙と、巻頭の「カンタン刑」というやけに魅力的なタ

それにしても、今回の作品集に私の申し出が間に合ったのは、まさにギリギリだったそう。この二月に「ふしぎ文学館」の一冊目、小松左京の『石』が出てその続刊予告を見てからでは（私のことだ、見落していた可能性も多々ある）遅かったかも知れない。となると、昨年末の地下鉄ホームでの会話の時から、清水氏のマジックは働いていたわけで、この次にはどんな形で氏から連絡があるか、楽しみにしている。  
（一九九三年春記）

（\*）後年の目下三蔵氏にはかならない

## 五所光太郎（式貴士研究者）

イトルの短篇に惹かれて『鉄輪の舞』（出版芸術社刊）を衝動買いしたのがきっかけである。実際に読んだのはその一年後の浪人生の時だが、その時の読書体験が強烈だった。エロ、ゲロ、ナンセンス、センチメンタリズムの入り混じった奇妙な短篇群の虜になってしまふ。

けれど、その時すでに全ての著作は絶版で、『鉄輪の舞』は復刻ベスト本だった。当時の私は古本屋でしか手に入らない本があるということもよく知らない。巻末の著者リストをたよりに新刊書店に注文し、当然在庫なしと言われて途方にくれている時、たまたま予備校近くの古本屋の百円均一コーナーで件の本を見つけた。「古本だけど新刊がないなら仕方ないか」と渋々その絶版の角川文庫を買ったのが、思えば古本を買集めるようになるきっかけだった。式貴士の本には、作品以外の魅力がある。異様に長い「あとがき」だ。長い時には原稿用紙八十枚にもおよび、自作の詳細な解説、読者からの手紙の紹介、作品を書けないボヤキ等々、延々と自分のことが書かれている。それによると、彼は式貴士としてデビューする前に、様々

なペンネームを駆使して文筆活動をしていることが分かる。ざっとあげても、間羊太郎名義でのミステリ評論や雑学本執筆（紀田順一郎氏との共著もある）、小早川博名義での性雑学本・ジョーク記事執筆（風俗研究家という肩書きで『IPM』にも出演した）、ウラヌス星風名義で古い記事を執筆（西洋占星術師としてプロ級の腕前だった）など様々である。

著者自身、作品を書くより楽しいと言うほど、とにかくこの「長いあとがき」が面白く、私はだんだんと作品よりも式貴士という作家自体に興味が湧いてくるようになった。大学時代は別ペンネームの著作を探し歩き、少しでも式貴士が書かれている本や雑誌を集めるようになるがほとんど情報は集まらない。

また、「長いあとがき」には一切書かれていないが、式貴士としての作家活動がほとんど行われなくなった後は、蘭光生として、アダルト小説界で、団鬼六氏、千草忠夫氏と並んでポルノ作家御三家と呼ばれるほどの大活躍をしている（フランス書院文庫、マドンナメイト文庫を中心に数多くの著作がある）。知れば知るほど、式氏の執筆活動の広さ、偏執的なまでの作家活動の変遷ぶりに驚かされ、私はいつしか彼の活動の全容を調べてみたいと思うようになっていった。

大学卒業後、式貴士について自分で取材してみようと決意し、『鉄輪の舞』の版元である出版芸術社に手紙を出して式貴士を知る人を紹介してもらったのが二〇〇〇年のこと。数多くのことが分かったが、まだまだその全容はつかめていない。あまりに活動分野が広いのだ。その予備知識を得るのに一苦勞で、式貴士を研究していなければならぬ。星術の本やアダルト小説を読むことはたぶんなかっただろう。けれど、ほとんど興味の世界が広がっていき楽しみがあつて飽きることがない。本当に多くのことを教えてもらったし、影響も受けた。

「一冊の本が人生を変えた」なんていうと少し大げさかも知れないが、式貴士研究は私のライフワークとなりつつある。天国の氏が喜ぶか否かさだかではないが、いつか評伝のようなものが書けたらと夢想しつつ、今もこつこつと取材や調査を続けている。  
（二〇〇三年夏記）

# 式貴士年譜

1933年(0歳)	2月6日、東京に生まれる	式貴士以前
1957年(24歳)	早稲田大学大学院卒業際に発足した、ワセダミステリクラブに入会	
1961年(28歳)	S F同人誌『アステロイド』創刊号に「虹のジプシー 第一部 $\pi$ の哲学」(間羊太郎)を発表	
1962年(29歳)	『ヒッチコックマガジン』にて、掌編「海の墓」(間羊太郎)で活字デビュー	
1963年(30歳)	『宝石』にて、間羊太郎「ミステリ百科事典」連載開始(1964年まで)	
1967年(34歳)	紀田順一郎との共編『これが日本一 記録がなんでもわかる本』(間羊太郎)発行	
1968年(35歳)	『門外不出オトナのいたずら 欲求不満をふっ飛ばす』(小早川博)発行	
1970年(37歳)	『えろちか』にて、蘭光生「猟奇博物館」連載開始(1971年まで)	
1971年(38歳)	三崎書房より、間羊太郎『ミステリ博物館』発行	
1972年(39歳)	三崎書房より、蘭光生『SM博物館』発行	
1973年(40歳)	講談社より、間羊太郎『知らないとその500』発行	
1974年(41歳)	『週刊プレイボーイ』にて、ウラヌス星風「古星仮面の大予言インタビュー」連載開始(同年終了) 『奇想天外【第1期】』にて、ウラヌス星風「タローカード入門」連載開始(同年終了)	
1975年(42歳)	『週刊プレイボーイ』にて、構成を担当した「今東光の極道辻説法」連載開始(1977年まで)	
1977年(44歳)	『奇想天外【第2期】』にて、「おてて、つないで」で式貴士として作家デビュー	
1979年(46歳)	CBSソニー出版より、処女単行本『カンタン刑』発行。同年に『イースター菌』も発行	
1980年(47歳)	CBSソニー出版より、『連想トンネル』『虹のジプシー』、集英社より『吸魂鬼』を発行	
1981年(48歳)	CBSソニー出版より、『ヘッド・ワイフ』『怪奇日蝕』発行 社会思想社・現代教養文庫より、間羊太郎『ミステリ百科事典』発行 二見書房より、処女作品集『女教師犯す』で蘭光生として本格デビュー	
1982年(49歳)	角川書店より、『カンタン刑』『イースター菌』『連想トンネル』が文庫化(1986年、『怪奇日蝕』まで刊行) CBSソニー出版より、『なんでもあり』発行	
1983年(50歳)	CBSソニー出版より、『天虫花』発行	
1984年(51歳)	CBSソニー出版より、生前最後の単行本『アイス・ベイビー』発行	
1990年(57歳)	東京医大に入院。食道がんの手術を受ける	
1991年(58歳)	2月18日、逝去。遺骨は、本人の遺志により「文学者の墓」に埋葬される	
1993年(没後2年)	出版芸術社より、『鉄輪の舞』発行	没後
2003年(没後12年)	『月刊ミステリーDX』にて、「鉄輪の舞」が漫画化(画・JET)	
2005年(没後14年)	文春文庫より、間羊太郎『ミステリ百科事典』再刊	
2008年(没後17年)	光文社文庫より、『カンタン刑く式貴士 怪奇小説コレクション』発行 河出i文庫より、蘭光生『SM博物館』再刊	
2012年(没後21年)	光文社文庫より、『窓鴉く式貴士 抒情小説コレクション』発行	
2013年(没後22年)	私家版『死人妻く式貴士生誕80周年 未収録作品集』発行	
2014年(没後23年)	絶筆の短篇「死人妻」が、『年刊日本SF傑作選 さよならの儀式』(創元SF文庫)に収録される	
2015年(没後24年)	私家版『神秘への扉 タローカード入門く西洋占星学研究集成』(ウラヌス星風)発行 論創社より、『虹のジプシー 完全版』発行	